

trivia ■ 皮膚科のトリビア ■ 160

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きししたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

ブデソニド吸入剤による多形滲出性紅斑

第66回日本アレルギー学会学術大会から(平成29年6月18日)

20歳代の女性、小児喘息の既往あり。感冒症状に喘鳴が加わり、ブデソニド/ホルモテロール吸入を処方された。2週間後から多形滲出性紅斑と舌、咽頭のびらんが出現した。スクラッチパッチテストでブデソニドが陽性。原因薬と判断した。

「ブデソン軟膏によるかぶれをかつて多く経験した。喘息用の吸入薬としてはパルミコート[®]、シムビコート[®]の主成分がブデソニドで、多くの喘息患者に処方されている。また、Crohn病治療薬のゼンタコートカプセル[®]は、小腸および結腸近位部にて放出するように設計されたブデソニドの腸溶性徐放顆粒を充填した硬カプセル剤とのこと。今回のような症例が増えなければいいが、心配である」。

次世代医療基盤法って何だ？

神奈川県保険医協会医療問題研究会から(平成29年6月30日)

医療分野の膨大なデジタルデータの利活用を進め、研究、医療システム、医療行政に資するアウトカムを含む多様なデータを大規模に収集・利活用する仕組みを設けるための法律で、平成30年5月11日に施行された。本法は個人の権利利益の保護に配慮

しつつ、高い情報セキュリティを確保し、十分な匿名加工技術を有するなどの一定の基準を満たしそれを適正かつ確実に行うことができる業者を認定する仕組みを設けたことが特徴。

「講演では医療情報も情報流通と空間の分離が進むとの見解だった。検査と予防は家庭へ、リハビリとケアも家庭へ、医療は社会へ、介護は施設へという流れだと述べられていたが、本当だろうか」。

知らなかったdermadrome

神奈川県皮膚科医会第154回例会から(平成29年7月2日)

・spiky keratoderma(keratoderma punctata)：掌蹠に多発する点状角化性小結節で、37例のうち10例に食道癌などの悪性腫瘍があった。・Birt-Hogg-Dube(BHD)症候群：顔面と頭頸部の線維毛包腫(fibrofolliculoma)や線維性疣贅(acrochordon)に、多発性肺嚢胞と腎癌を合併する常染色体優性遺伝の疾患。・remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema(RS3PE)：症状は手背の浮腫と関節リウマチ様の手指の変化。肺癌、前立腺癌、卵巣癌、乳癌、膀胱癌、消化管癌などの合併がある。・cancer-associated fasciitis panniculitis：両下腿の持続性脂肪組織炎ないし筋膜炎で、女性に多い。血液、リンパ球系の悪性腫瘍の合併が多い。・Reed's syndrome：20歳過ぎから多発する四肢や体幹の皮膚平滑筋腫と単発性腎

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス：

<http://www.asai-hifuka.com>

癌，女性では子宮筋腫を併発する遺伝性疾患。

「どれも初めて聞く疾患名だが，皮膚病変は意外にありふれた症状だった。見逃しているかもしれないので，すべて記憶にとどめておこう」。

母乳中ビタミンDが 年々減ってきている

第41回日本小児皮膚科学会から (平成29年7月8日)

母乳栄養児のビタミンD不足が国際的な課題になっている。2016年夏・冬に採取した産後3～4カ月の母乳と1989年に採取した同じ時期の母乳に含まれるビタミンD₂/D₃と25-ヒドロキシビタミンD₂/D₃を九州，関東，北海道で比較した。食事からのビタミンD摂取と母乳中ビタミンDには有意な関連はなかった。季節による変化は夏に多く，冬に少ない。地域差はなかったが，外出時間と正の相関があった。経年的には1989年の母乳に比べて2016年の母乳中のビタミンDが有意に低かった。

「児のアトピー性皮膚炎の発症にも関連しているといわれている。アレルギー発症の予防としてビタミンDをサプリメントとする効果については，一致した結果がまだないらしい。授乳婦もそれなりに紫外線に当たるようにすることが重要かもしれない」。

特殊ミルクの長期投与で 生じた脱毛症

第41回日本小児皮膚科学会から (平成29年7月8日)

ミルフィー®HPによるセレン欠乏とてんかん予防のために使用されたケトンフォーミュラによるビオチン欠乏。いずれも脱毛とCK上昇を伴った。それぞれ不足を補うことで症状の改善を認めた。特殊ミルクはそれぞれの組成を確認し，不足しがちな栄養素の補充を行う必要がある。

「明治のHPでは，さまざまな“特殊ミルク”が紹介されている。先天性代謝異常症の栄養補給や治療には，国の助成事業として無償で提供される“登録特殊ミルク”と企業が無償で製造・提供する“登録外特殊ミルク”があるとのこと」。

